



## 間断かん水で根の活力を維持し、出穂に備えましょう 斑点米カメムシ類の発生多い！防除を徹底しましょう

### ◎ 生育概況と技術対策

「雪若丸」の7月20日現在の生育は、指標値と比べ、草丈はやや長く、茎数・葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっています。

出穂期は、農業総合研究センター（山形市みのりが丘）で8月2日頃（平年8月3日）、水田農業研究所（鶴岡市藤島）で8月1日頃（平年8月2日）と、やや早い見込みです。

平坦部「雪若丸」の生育（7月20日）

項目	調査値	指標値	指標比・差
草丈	67.2 cm	64.0 cm	105 やや長い
茎数	632 本/m <sup>2</sup>	610 本/m <sup>2</sup>	104 やや多い
葉数	12.1 枚	11.6 枚	0.5 やや多い
葉色 (SPAD)	39.7	40.8	-1.1 やや淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

「雪若丸」予想出穂期（7月20日現在、農業総合研究センター調べ）

場所	予想出穂期	平年出穂期	平年差
山形市みのりが丘	8月2日	8月3日	-1日
鶴岡市藤島	8月1日	8月2日	-1日

※過去7か年（H27～R3）の平均値

### （1）間断かん水で根の活力維持！出穂直前から湛水管理！

出穂までの水管理は間断かん水を基本とします。土壌を酸化的に保ち、根に水分と酸素を供給しながら、根の活力維持に努めましょう。

出穂・開花期は、水を最も必要とする「花水」の時期です。出穂直前から穂揃期までは2～5cmの水深を保つように管理します。

### （2）斑点米カメムシ類対策・いもち病対策を万全に！

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。穂揃い期とその7～10日後の2回防除を基本とし、地域で時期を合わせて一斉に防除すると効果的です。

いもち病の感染に好適な気象条件となる日が多くなっています。穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を基本に行いましょう。

**農作業事故と熱中症に十分注意してください！**

**休憩をこまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！**